

共同礼拝

2025年1月19日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 イザヤ書 65章17, 18節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 16編7～11節 (旧846)

マタイによる福音書26章14～29節(新52)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 444

青年祝福式

説 教 「救いの深さ」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 495

献 金

頌 栄 544

祝 禱

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

1月の祈り

新しい年を迎え、主の恩寵と自分の歩みを回顧し、悔い改めと赦しに生きることができるよう。

教会の全ての働きが、主の導きによって導かれ、整えられ、伝道が力づけられるように。

戦火や被災地にある人々と教会、伝道者・信徒が支えられ、教会の回復が支えられるように。争いの地に平和がもたらされるように。

高齢で、また、体調などにより礼拝に集うことが出来ないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

今日の祈り

主に連なる青年たちの歩みが守られ、導かれるように。その魂と体とが健やかに保たれるように。信仰が力づけられ、この世にあつて真実を見抜き、人々を愛し、誠実に生きることができるよう。

その家族が支えられるように。

この時代の困難を乗り越え、新たな時代に生きる力が与えられるように。

「救いの深さ」 高橋和人

マタイによる福音書26章14～29節

青年への祝福は、信仰の希望への招きとなる。これからの時代を希望に生きよう。特に混乱に時代、明るい未来を提供できるわけではない。しかし、教会は苦難を越えてきた。闇の中の光を知っている。

イスカリオテのユダは取り除けないとげになる。この場面は避けて通り過ぎたい。しかし、福音書はその存在と行為を記録している。それゆえ御言葉として聞き、御心を求めることができるか問われる。

人の歩みには、説明も付かず、解決もされず、しかし、影のように拭えないことがある。そして幾多

の問いが沸き起こる。

この場面は最後の晩餐の前にありユダも同席している。晩餐は主によって整えられ、過ぎ越しの食事を越えて、主イエスの肉と血に与るものとされた。聖餐式につながり、今も教会に生きている。制定、配餐、祈りが引き継がれている教会の命だ。

ユダは銀貨三十枚で主を引き渡す。ユダとは何か。なぜそうしたのかは語られない。主の選ばれた十二弟子のひとりなのに。ユダの裏切りは重くそこにある闇は深い。

しかし彼だけにではないものがある。主の排除は祭司長と長老たちの意思であり、主を換算した。弟子たちも主を捨てて十字架から逃げ去った。

主は裏切りを知っておられた。弟子たちは「まさかわたしのことでは」(22)と声に出す。さらに主は「生まれてなかった方が良かった」と言われた。27章でユダは後悔し、「罪を犯しました」(27:4)と告白し、自ら命を絶ってしまった。

なぜ彼を弟子に選ばれたのか。ユダなしに主の十字架の道は果たされなかった。主の十字架への道はユダも巻き込んで進められて行く。

それは人の罪にかかわることであった。わたしにもかかわる。罪は「わたしのことではない」と自分の罪を覚えさせず、その深さは「生まれてこなかった方が良かった」言われるところにまで至る。罪の深さを認めなければ赦しを知ることはできない。

主の十字架はこれとかかわりのないところにあるのではない。人は不条理に出くわし、自ら間違いも犯す。答えの出ないままにされることがある。

しかし、主が負ってくださった十字架の力は及ばないところのないものだ(1ペトロ3:18-19)。信仰はそれに信頼し続ける。